

平成 23 年度
千葉市健康づくり推進協議会
第 1 回食育推進部会
議 事 録

平成 23 年度千葉市健康づくり推進協議会 第 1 回食育推進部会 議事録

1 会議の名称

平成 23 年度千葉市健康づくり推進協議会 第 1 回食育推進部会

2 開催日時

平成 24 年 1 月 26 日（木） 午後 7 時から午後 8 時 30 分

3 開催場所

千葉市美浜区幸町 1-3-9

千葉市総合保健医療センター

4 出席者

（1）委員

渡邊智子会長、大濱洋一副部長、伊藤和彦委員、岩瀬恵子委員、岡部明子委員、木川茂雄委員、
斉藤浩司委員、斎藤昌雄委員、清水葉子委員、杉崎幸子委員、杉森信幸委員、杉山初江委員、
鈴木和子委員、藤沼照雄委員、横田大輔委員

※欠席委員

篠崎民江委員、山本直子委員

（2）委員以外の出席者

村井早苗（生活協同組合ちばコープ）

（3）事務局

濱野一男消費生活センター係長、本橋忠生活衛生課長、山本一重食品安全課長、
柴田厚男高齢福祉課長、渡辺康弘こども企画課担当課長、齋藤文秀健全育成課長、
久保浩司保育支援課長補佐、松尾修一保育運営課長、丸島正一廃棄物対策課長、
福原晃農業経営支援課長補佐、石出信二農業生産振興課長補佐、白鳥洋二稲毛区健康課長、
田村真理指導課指導主事、高田裕史保健体育課長補佐、君塚常行生涯学習振興課長補佐、
窪田和子健康部技監兼健康支援課長、福田峰子健康支援課主幹、増田幸一健康支援課長補佐

5 議題

- （1）部会長及び副部会長の選出について
- （2）千葉市食育推進計画の取り組み状況について
- （3）今後の食育推進の取り組みについて
- （4）その他

6 議事の概要

冒頭、事務局から、千葉市健康づくり推進協議会設置条例第 7 条第 7 項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨の説明があった。

（1）部会長及び副部会長の選出について

委員の互選により、渡邊委員を部会長に、大濱委員を副部会長に選任した。

（2）千葉市食育推進計画の取り組み状況について

千葉市食育推進計画の概要について、事務局から説明を行った。

平成 22、23 年度の食育推進計画の取り組み状況について、事務局から説明を行った。

(3) 今後の食育推進の取り組みについて

今後の食育推進の取り組み(食育月間・食育の日、食育のつどい)について、事務局から説明後、審議を行った。

(4) その他

今後の審議日程等について、事務局から説明を行った。

7 会議経過

(1) 部会長及び副部会長の選出について

千葉市健康づくり推進協議会設置条例第 4 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により、会長及び副会長を選任した。

選任に当たっては、委員から、部会長に千葉県立保健医療大学教授である渡邊委員を、副部会長に千葉市医師会理事である大濱委員をそれぞれ推薦する旨の提案があり、当該提案のとおり承認された。

(2) 千葉市食育推進計画の取り組み状況について

〔資料 3 千葉市食育推進計画の概要〕により、国・千葉県の食育推進の概要、千葉市食育推進計画の概要について、また〔資料 5 千葉市食育推進計画 取り組み一覧表〕により、千葉市の食育推進計画取り組み状況について事務局から説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

お弁当や給食を食べる子どもたちの姿に差があるように感じる。おかずを全部先に食べてからごはんを食べる子どもが、ここ 15 年位増加してきたように思う。食べることに對する家庭の意識や親の感覚が変わってきたと感じる。

幼稚園で、包丁を使い、サンドイッチを作る活動を行っている。その時に、身体を作るのに必要な食材を、子どもたちの目の前に置いて、話をすると、よく食べるようになる。

幼稚園は、「食育」のスタートになるので、「食べることは楽しく、自分の身体を作るのに大切なこと」を最初の切り口で伝えていきたいと考えている。

それぞれの幼稚園で工夫しながら、活動を実施している。

<委員>

食事をする時の食具（スプーン、フォーク、箸）について、子どもたちの発達にあわせて、工夫されている幼稚園の取り組みを聞いたことはあるか。

<委員>

3 歳から「箸」が使えるように、無理のないように取り組んでいる。箸を使うことがストレスになるのは、マイナスである。大事なのは、おかあさんが作ったお弁当を、自分で食べきれること。3 歳はスプーンなど食べやすい方法で、年齢が上がるごとに「箸」を使う。ほとんどの幼稚園がそうであると考えている。

おとうさん・おかあさんが箸をきちんと持てず、箸の使い方や持ち方が下手なお子さんが若干増えているように感じる。

<委員>

苦手な子には、箸は、特に難しい食具になるので、ゆっくり使うよう配慮をお願いしたい。幼稚園に通う障害を持つお子さんが、負担に感じているという声を聞いたこともあるので。

<委員>

0歳児、1歳児の育児サークルを立ち上げている。親としての経験で、離乳食や卒乳などに関するおかあさんたちの悩みを聞き、場合によっては保健師につなげている。

<出席者>

一人ひとりが食に対して関心を持ち、自分の健康・家族の健康を考える。その中で、どういう食生活を送ったらよいか、自ら考えて選んでいく“食選力”をアップするために、様々な取り組みを実施している。

農業体験では、単発の収穫体験も行っているが、生産者と一緒に、種まきから育て、収穫、食べるまでを家族一緒に体験することに力を入れている。若い世代の家族が農業・農作業を理解し、生産者は消費者の要望を知るよい機会となっている。

また、今年「食」の力をつけるワークショップ開催にむけたガイドブック」を作成した。

「食育や食事バランスガイド、地産地消について学習しましょう」といっても、人は集まらない。調理体験や農業体験（収穫体験）等を行う時に、食事のバランスを考えてみよう、地産地消のことを考えてみようといったことを少しずつ取り入れ、ワークショップ形式でまとめたものを、学校の栄養士や食育ボランティア、食育サポート団体・企業等に配布した。このワークショップのプログラム提供を、小・中学校で何回か実施した。

最後に、3月25日に幕張メッセで、「つなぐ」を合言葉に「きやっせ物産展」を開催予定。千葉の生産者、食に関わる人たち、福島の方などいろいろな方と食と人をつなぐつどいを計画している。

<委員>

ニンジン、スイカ、キャベツなどを作っている農家が、学校に出向き、出張授業（栽培方法や歴史等を教え、子どもたちと一緒に給食を食べるまで）を行っている。

また、田植え、稲刈りなどいわゆる“食農”を行い、郷土料理の太巻き寿司の講習会も数多くの学校で実施している。

小倉町にある直売所「しょいか〜ご」では、約40人のパートのうち25人が食育ソムリエ（JC総研の通信教育）の資格を取得し、実際に売っている野菜の食べ方を伝えている。

富田町の交流センターでは、毎月「祭りずし講座」を実施している。

また、10～12月には、学校に米を納めている。生徒においしい米を食べてもらうために、全部の生産者に食味検査を実施し、おいしいコシヒカリの講習を実施している。

<委員>

平成6年から「かむ子・のびる子・元気な子料理コンクール」を行っている。栄養は口を通して入っていくので、噛んでよく味わって食べることが大切。最初は料理を作っていたが、今は「健康かみかみ弁当」の料理コンクールを実施している。

県内の小・中学校、高等学校（フードデザインを勉強している学校、サークル活動）などを含め、平成23年は300通近い応募があった。

4年生以上の生徒から約150通を超える応募があった小学校では、「健康かみかみ弁当」の取り組みを通して、子どもたちの歯磨きに対する意識が変わった、かなりう蝕の子が減ったと聞いている。

今年は、入賞作品を小学生の親子（５組）が、調理実習し、試食後、口腔ケアの教室を開催した。

<委員>

平成 15、16 年頃から 10 月のちば市民の日の前と 12 月のクリスマス前に 2 回、親子料理教室を開催している。各回 30 名位の参加がある。

家庭では子どものペースでゆっくり見守ることはできないが、今日は時間やゆとりがあるので、ゆっくり見守って一緒に作ることができたという感想もある。子ども自らが調理する機会を作るという意味でも、これからも親子料理教室を食育の視点からも継続していきたいと考えている。

<委員>

23 年度は千葉市食育推進計画に基づき、ライフステージ別地区伝達マニュアル（食生活改善推進員が活動するためのマニュアル）を作成した。毎年養成される食生活改善推進員（ヘルスメイト）が、スムーズに活動するために、昨年と今年 2 年間かけてマニュアルを作成した。同時にライフステージ別の献立も作成し、市民に配布予定である。

また郷土料理の普及では、太巻き寿司の講習会を実施している。

（３）今後の食育推進の取り組みについて

〔資料 6 市民の食育への関心の現状〕〔資料 7 今後の食育の取り組みについて〕により、取り組みの方向（案）（食育月間・食育の日、食育のつどい等）について、事務局から説明を行った。今後の食育の取り組み（案）について、委員から異議がなく、本案は了承された。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

千葉市では、千葉市食育推進計画があるが、学校では、学校における食育の推進という指導の手引が配られている。これを基に、各学校 資料 4（２段目のフィリップ）のような取り組みを行っている。

各学校では全体計画をたて、栄養士が学級担任と一緒に指導を行ったり、ヘルスメイトと一緒にパン作りを行ったりするなど実態に合わせた取り組みを行っている。

また、地域の栄養士同士が集まって、子どもが楽しくおいしく食べられるように様々なテーマで、研修会を開催している。

児童の活動（給食委員会）では、子どもたちが残菜を調べ、残菜を減らすためにどうしたらよいか、子どもたちから子どもたちへ投げかけている。

また、具体的な指導方法の提案、資料の提供で、子どもたちの食も変わってくると考えている。

<部会長>

食育全体計画は、千葉市全部の学校が作ったということか。

<委員>

全校で作成している。給食指導の内容で、月ごとに目標を作り、実施している。

<部会長>

校長先生のリーダーシップはとても大きい。是非、小中学校の校長先生には、食育に関心を持っていただきたい。

入学式の日「うちの学校の給食は、とてもおいしい」と言うことで、子どもも保護者も安心する。是非そうしていただけるとありがたい。

<委員>

保護者への啓発は、各学校、試食会を行っている。1年生の保護者が対象だったが、今年から給食が民間委託になったので、全校に声をかけて実施した。

<委員>

保育協議会の組織は、千葉市内の公立・民間保育園合わせて105か所の保育所の加入によって成り立っている。それぞれの保育所において、食育をすすめている。

「おいしく楽しく食べる食事」を基本に、0～5歳のお子さんそれぞれの年齢にあわせた食事の提供、また楽しい環境の中で食べることを実施している。

子どもは模倣から始まるので、日々一緒に食べることが大切である。その中で子どもが信頼できる大人、好きな友達と一緒にテーブルを囲んで食べることが、楽しい食事につながると考えている。

一緒に食べることで、自然にマナーも身につく。テーブルを囲みながら「おいしいね」といって同じものを味わうことが、子どもにとって好き嫌いがなくなるきっかけになっている。

年齢が大きくなると、簡単なクッキング（所庭にある木の実を使ってマーマレード、ジャム、簡単パン、クッキーなど）を取り入れ、食べることのつながり、自分で作ったものがこんなにおいしく食べられるということを体験している。

今年は放射能の関係で野菜の栽培もかなり規制があったが、以前は、庭で簡単な野菜作りをして、それを目の前で収穫して食べる。自分が水をあげ、草をとって育てた野菜は、嫌いなものでも、ちょっと食べてみようかなという姿が見られた。自分が何かに係わって食べる、それが命をつなげることにつながっているの、そういう体験を、保育の一環として取り入れている。

家庭への啓発は、写真に撮って知らせる、栄養士が作る“食育だより”、簡単にできる朝食・手作りおやつレシピ等の配布により行っている。

行事の時は、保護者に試食を提供し、うす味で食事をするのが、健康につながることを体験してもらっている。

また、朝食・生活リズムのアンケートを実施している。保育所は一人ひとりの生活リズムが違い、朝ごはん抜きで預けられる子どももいる。そうした調査をふまえ、できるだけ個々に対応している。

保育協議会組織としての主な活動は、研修である。栄養士と保育士は、保育と食育が連動した内容の研修、調理員は、「子どもの好きなおやつ」の実務的な研修を、毎年、行っている。

また、各区のコミュニティ祭りや区民祭りに積極的に参加し、地域の子育て中の親の相談を受ける、レシピの紹介等を行っている。

<部会長>

食育のつどいに関して、各団体と一緒に実施していきたいと事務局から話があったが、協力できる方はいますか。

<委員>

毎年参加しているので、是非また参加したいと考えている。

<委員>

土日開催であれば、学生の動員も可能かと考えている。

<委員>

次年度のことは、検討中なので、きちんとした回答はできないが、例年通り、協力できると考えている。

<委員>

積極的に参加、協力していきたいと考えている。

<部会長>

各団体から協力の申し出があったので、よろしくお願いします。また、各所属で検討し、積極的に、協力をお願いします。

(4) その他

24 年度は千葉市食育推進計画の調査を行う年である。

また、今後の審議は、来年度に予定している旨、事務局から説明を行った。

以上のとおり議事を進め、午後 8 時 30 分に閉会した。

以上

平成 24 年 1 月 26 日（木）開催の平成 23 年度千葉市健康づくり推進協議会 第 1 回食育推進部会の議事録として承認し、署名する。

千葉市健康づくり推進協議会 食育推進部会長

問い合わせ先 保健福祉局健康部健康支援課

電話 043-238-9926

F A X 043-238-9946

電子メール shien.HWH@city.chiba.lg.jp